

SARS-CoV-2 新型コロナウイルス

— Lambda変異体、さらなる広がりへの懸念 —

- ▶ Lambda was considered a VOI by the World Health Organization.
- ▶ The Lambda variant (C.37) is defined by a deletion in the ORF1a gene ($\Delta 3675-3677$), also present in Alpha (B.1.1.7, United Kingdom), Beta (B.1.351, South African), and Gamma (P.1, Brazil) VOCs. In addition, the Lambda variant displays a novel deletion and multiple nonsynonymous mutations in the spike gene ($\Delta 246-252$, G75V, T76I, L452Q, F490S, D614G, and T859N).

2021年6月14日、SARS-CoV-2のLambda (C.37) 系統は、世界保健機関 (WHO) により variant of interest (VOI) に指定されました。翌6月15日には、WHOのウェブサイトも更新されています。

▶ First identification of SARS-CoV-2 Lambda (C.37) variant in Southern Brazil

ブラジル南部で SARS-CoV-2 のラムダ (C.37) 亜種が初めて確認される

今回『Lambda』と割り当てられた C.37 は、 α (B.1.1.7、イギリス)、 β (B.1.351、南アフリカ)、 γ (P.1、ブラジル) の VOC にも存在する ORF1a 遺伝子の欠失 ($\Delta 3675-3677$) によって定義され、さらに、スパイク遺伝子に新規の欠失と複数の変異 ($\Delta 246-252$ 、G75V、T76I、L452Q、F490S、D614G、T859N) を有していると記載されています。

この Lambda 変異体は、2020年8月にペルーで検出された後、急速な拡大に国際的な注目が集まっています。特に、チリ、ペルー、エクアドル、アルゼンチンなどの南米諸国における感染率は高く、医療システムが危機的な状況にあり、最近では死亡者数の増加が報告されているとしています。しかし、その急速な広がりにもかかわらず、ブラジルでは、2021年2月にサンパウロ州で報告されたただけでした。筆者らは、ブラジル南部地域での感染拡大の可能性を懸念しており、また、VOCになる可能性がかなり高いと考えられると報告しています。

Wink, Priscila Lamb, et al. "First identification of SARS-CoV-2 Lambda (C. 37) variant in Southern Brazil." medRxiv (2021).

(ここでご紹介した論文は、21.07.02 現在、まだ査読が完了していないものです。)